

Cool Japan の行方

－訪日外国人におけるポップカルチャーの捉え方－

佐々木 隆

《 論 説 》

Cool Japan の行方

—訪日外国人におけるポップカルチャーの捉え方—

佐々木 隆

はじめに

Douglas McGray “Japan’ s Gross National Cool” (2002)として発表されてからすでに15年以上が経過した。いわゆる「クール・ジャパン」はジャーナリストのダグラス・マッグレイ (Douglas McGray, b.1975)が外交専門誌 *Foreign Policy* (May/June, 2002) に発表したものである。現在では国策として「クールジャパン政策」が進められている。本稿ではマッグレイが提唱した「クール・ジャパン」と「クールジャパン政策」が必ずしも同一線上にあるものではなく、むしろ訪日外国人の感じ方をどのように日本側がどのように捉えるべきかに注目していきたい。なお、マッグレイのものは「クール・ジャパン」と表記し、政策ものは「クールジャパン (政策)」として表記する。

1. ダグラス・マッグレイの「日本のグロス・ナショナル・クール」(2002)

ダグラス・マッグレイが発表した“Japan’ s Gross National Cool”（「日本のグロス・ナショナル・クール」）の内容を簡単に紹介しておこう。次のようなりードで始まる。

Japan is reinventing superpower- again. Instead of collapsing beneath its widely reported political and economic misfortunes, Japan’ s global cultural influence has quietly grown. From pop music to consumer electronics, architecture to fashion, and animation to cuisine, Japan looks more like a cultural superpower today than it did in the 1980s, when it was an economic one. But can Japan build on its mastery of medium to project an equally powerful national message? (1)

戦後の日本は安価の製品を大量に輸出することで欧米社会に食い込もうとしていたが、品質を問われるようになると、安価のものというよりは良質のものを生産するようになる。良質のものを生産するためには技術が伴う。象徴的な出来事は1972年にアメリカのエドモンド・マスキー上院議員の提出したアメリカの大気浄化法改正法に対応すべくホンダは1973年にCVCC (Compound Vortex Controlled Combustion、複合渦流調整燃焼方式) エンジンを開発し、1973年にこのエンジンを搭載したシビックを発売した。世界で初めてマスキー法をクリアした自動車という栄誉を得たのだ。メイド・イン・ジャパンの象徴的な出来事である。その後もカメラや家電製品を始めとして高品質なメイド・イン・ジャパン神話はすたれているわけではない。1979年には音楽業界を一変させたソニーのウォークマンの発売、1983年には任天堂がファミコンを発売し、その勢いは世界中に波及してくことになる。もちろん、現在でも日本の技術は世界のトップクラスであることは間違いない。しかし、このクール・ジャパン論で取り上げられているのは、まんだらけの古川益三 (1950 生)、三宅一生 (1938 生)、北野武 (1947 生)、宮崎駿 (1941 生)、イチロー (鈴木一朗、1973 生) をはじめ、任天堂DS、ポケモン、ハローキティ、相撲などが取り上げられているのである。

Standing astride channels of communication, Japan already possesses a vast reserve of potential soft power. And with the cultural reach of a superpower already in place, it's hard to imagine that Japan will be content to remain so much medium and so little message. (2)

クール・ジャパン論は以上のように結論付けられている。ここで注目しておきたいことは、マッ格雷イが日本にはすでに可能性に満ちたソフトパワーが大量に蓄えられているが、これをまく発信し、活用しきれていないという主張である。

2. ジョセフ・ナイのソフト・パワー

ジョセフ・ナイ (Joseph S. Nye Jr., b. 1937) は『不滅の大国アメリカ』 (*Bound to Lead: The Changing Nature of American Power*, 1990) の中でソフト・パワーにつ